静商同窓会報

発行人
静岡市葵区田町７丁目90番地
TEL〈054〉221－7030
静商同窓会

編集
静商同窓会
広報委員会

題字 原　耕司氏

第37号

定時総会・懇親会

新会長に 原耕司氏

令和六年六月八日、令和六年度静商同窓会定時総会が開催された。総会に先立ち、世界的なアーティスト 第82回卒 久保田利伸氏の講演会が開催された。「嗚呼　我母校！」と題した講演は、約五〇〇席を埋め満席となった。在学中のエピソードを織り交ぜながら語った失敗談・挫折談は多くの聴衆に感動を与えた。講演会要旨を当番幹事より玉稿を賜った。

松浦真一郎
母校校長

原　耕司新同
窓会長

定時総会は、午後四時開催。校歌を斉唱した後、物故者に黙祷を捧げた。同窓会長、母校校長の挨拶が行われた。

議事に入り同窓関係として令和五年度事業報告及び令和六年度事業計画案、令和五年度決算報告及び令和六年度予算、硬式野球部後援会関係として令和五年度事業報告及び令和六年度事業計画、令和五年度決算報告及び令和六年度予算の報告がなされた。

引き続き会長選出ついての審議がなされ、第73回卒原耕司氏が選任された。

懇親会は、会場を五階センチューリに移して開催された。昨年とは違い人数制限が撤廃され、約五五〇名が参加。

アクリル板もなくなり、楽しげに語らう姿はいままでと変わらない光景である。校歌・応援歌を大合唱し、大ウェーブを巻き起こす「剛健進取の気概」は、コロナ禍を乗り越え、現在でも衰えることなく健在である。

講演会要旨

「波メロディを奏づれば～♪」冒頭から静商校歌の生歌でスタート。会場のボルテージは一気に上がり嵐のような拍手が沸きあがった。

『子供の頃からの夢は、甲子園に出ることと歌手になることであった』と語った。

『まずは一つ目の夢の甲子園を目指し、静商野球部に入部した。ところが甲子園の花の舞台に立つどころか野球部の練習というのが本当に辛く、正式なグランドで練習することすらできず、もっぱら安倍川の河川敷で練習をした。今は笑って話せますが、当時、あの練習が本当に大変で一年生の新入部員の半分位はやめていきます。

そんな中で僕は頑張って耐えて部員三十人中三十番目の実力で残ってしまいました。それが苦しみの始まりで、試合には当然出れない、ベンチにも入れない、野球部なのにバットを握ることすらなくユニフォームすら汚れない。下宿先のおじさんとおばさんに申し訳なかったんで、帰りの道端でユニフォームを汚して帰ったりしました。

そんな切ない辛い日々が続き、野球をやりたくて入った静商野球部ですが二年生の秋位でやめることになりました。

強い挫折感に陥りましたが、その後の人生、色んな辛いこと苦しいこと、体力的にも精神的にもどんなことがあっても、あの時の野球部の苦しみと比べたら、なんでもない、屁でもない、もうある意味、挫折から立ち直る体力、あの時学んだなって思います。

ひとつくらいうまくいったことがあります。それは「静商祭」です。野球やめてもうひとつ大好きだった音楽、吹奏楽部とマンドリン部の腕の良い精鋭達と組んでいたバンドで静商祭に出ました。

それまでの自分のうだつのあがらなさをはらすような気持ちで我を忘れて、無我夢中でがむしゃらに今の言葉でいうとゾーンに入った感じで歌いました

満員の体育館がびっくりするほど大熱狂で、経験したことのないくらいのすごい「オー！」という感覚、歌い終わったあとクラスメイトがステージに上り僕を胴上げしてくれた感動は今でも覚えています。

さて、失敗談ですが、三年生最後のバス旅行で学年全員を先導して反乱を起こしました。

行先は富士急ハイランドで、学校から制服で来るように言われて、僕としては「富士急ハイランドに遊びに行くのになんで制服なんだ？おかしい？明日は全員で私服で行こう！」クラスの中だけでなくすべてのホームルームを回って「おかしいよね、明日は私服で行くよ」学年全体に呼びかけた翌日、静岡駅に学年三〇〇人ほぼ全員が私服で来ました。

今思うとすごい！政治の公民権運動みたいな感じで僕は先頭に立ってバスの停車場に向かいました。引率する先生方はその場でバス八台をキャンセルし、結局、高校生活最後のバス旅行はなくなってしまい、みんなに申し訳ないとんでもないことをしたなと振り返りました。

学校も残り数か月間、東京の大学に行こうと決めておりましたが全部落ちました。

三月の卒業式、僕だけが明日からの人生が決まっていない、やるせない気持ちで「波メロディ」を歌いました。

実際、そのあとに駒沢大学の三月試験に何とか合格し進学できたのですが、このように波乱万丈の色んな思いをした高校生活、失敗は成功のもと、私はいくつもの失敗と挫折を味わいそれに育てられました。

静商、やんちゃな仲間がいたりとか後に県内外で活躍する産業をけん引する優秀な男女がいたりとかスポーツのスターがいたりとかユニークな才能が混在する大名門校で三年間、勉強や人生経験を送れたことが本当に大きかったと感謝をしています』

と締めくくった。講演会終了後、質問タイム、自筆サイン色紙の抽選会が行われ、「LA・LA・LA LOVESONG」のサビの生歌のサプライズもあり、講演会場は大熱狂の声援が渦巻くなか終演となった。

旧友との再会で思わず笑みがこぼれる久保田利伸氏と同期生の皆さん

久保田利伸氏より直筆のサイン色紙が
５名の当選者にプレゼントされた

令和６年度静商同窓会会計予算書

自 令和６年４月１日　至 令和７年３月31日

（収入の部）　（単位：円）

費目	令和5度予算額	令和5度決算額	令和6度予算額	備考
前年度繰越金	7,744,218	7,744,218	4,204,362	
入会金	2,720,000	2,720,000	1,990,000	
同窓会会費	4,500,000	3,640,000	4,000,000	未収金(4年度 48,000円・5年度 54,000円)
寄付金	100,000	4,000	100,000	
特別会計繰入金	0	0	4,000.000	
周年記念繰入金	0	0	0	
雑収入	50,000	5,725	50,000	
合計	15,114,218	14,113,943	14,344,362	

（支出の部）

費目	令和5度予算額	令和5年度決算額	令和6度予算額	摘要
会議費	800,000	695,430	1,100,000	定時総会費用、総代会会場費等
事業費	6,824,000	6,666,375	6,929,000	総務費、組織強化費、広報費、クラブ奨励費、教育振興費、周年記念積立金
事務費	2,570,000	2,34,776	2,470,000	事務費、旅費、通信費、消耗品費、印刷費、慶弔費、支払手数料、雑費
予備費	200,000	200,000	300,000	
計	10,394,000	9,909,581	10,799,000	
次年度繰越金	4,720,218	4,204,362	3,545,362	
合計	15,114,218	14,113,943	14,344,362	

会計　川澄　真一郎
副会計　佐藤　若江
副会計　鈴木　和臣

令和５年度同窓会会計、同窓会特別会計、周年記念積立金会計の監査の結果適正に処理され、計算書類は適正であることを認めます。

令和６年４月17日

会計監査　富田　総一郎　㊞
同　多田　達朗　㊞

※同窓会特別会計、周年記念積立金会計の掲載は割愛させていただきました。
※印影は略させていただきました。
※詳しくは、令和６年度静商同窓会定時総会に掲載してあります。

懇親会当番幹事　第83回卒

次は我々の番だ！

令和七年度同窓会の幹事は昭和五十七年卒第83回生が担当させていただきます。

私たちが入学した年は、営業科の定員の半分を女子、事務科女子クラス二組と情報処理科男子クラス二組を共学科にして、初めてほぼ男女同数になった年でした。それから四十五年の月日が経ち、社会も商業高校の役割も、現役の学生たちの気質も色々と変化してきているのだと思います。

同窓会定時総会の参加人数もコロナ禍以前より、かなり減少している現状ではありますが、同窓生の皆様にとって良き日になる様、同期一同力を合わせてまいります。

ぜひとも多くの方にご参加いただきますよう、ご協力をお願いいたします。

◎定時総会
・日時
令和七年六月七日（土）
・場所
ホテルグランヒルズ静岡
・講師　歴史研究家
曽根辰雄氏（予定）
・演題　渋沢栄一と静商
（予定）

◎実行委員長　志村　保明
懇親会長　篠田　淳

懇親会当番幹事　第82回卒

当番幹事の大役を終えて

令和六年度静商同窓会定時総会・講演会・懇親会の当番幹事を終え、ご参加いただいた約五五〇名の皆様に心より感謝申し上げます。

記念講演は『嗚呼、我が母校』の演題で当番幹事である第82回卒同期生の久保田利伸氏を迎えました。後に久保田氏本人が「あの時はスピーチの神が降りてきた！」と言ったくらい、笑いあり、感動あり、アカペラありの素晴らしいスピーチでした。また、久保田氏直筆サイン色紙の抽選会や質問コーナーも好評でした。

久保田氏にも参加していただいた懇親会は現役チアリーディング部の華やかな演技に始まり、終盤の応援団ＯＢによる応援歌・校歌斉唱で会場は最高に盛り上がり無事お開きとなりました。

また、お見送り時には大勢の皆様より「良かったよ、ありがとう」と労いのお言葉をかけていただき、嬉しくて涙が出そうでした。

来年度当番幹事へバトンを渡し、来年度も盛大に開会されることをお祈り申し上げます。

実行委員長　石川陽美

当番幹事の大役を終えホッと一息!!　お疲れ様